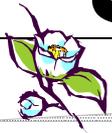


さくら+

学校便り「さくら」増刊

さくらプラス

平成30年12月17日
柴田町立船岡小学校



「学校評価」へのご協力ありがとうございました。

過日お願いした学校評価について多くの保護者の方々から回答をいただきました。お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。今後の学校運営に生かしてまいります。結果については、裏面に掲載しましたのでご確認ください。

保護者の方々からの評価結果は、大部分の項目で「4～6程度」となっており、概ね良好という評価をいただきました。一方、自由記述を見ますと、学校行事の持ち方や学校の相談体制などに疑問を持たれている意見が複数ありましたので、紙面を借りて学校の考えをお知らせします。



〔意見〕運動会の種目についての意見（要旨）

「リレーは、代表ではなく全員がいいのではないか。」

「毎年恒例の演技や競技は、もっと練習をして完成度を高めたらどうか。」

〔学校の考え〕

全員リレーは、平成28年度まで実施していましたが、①クラス全員が揃うことが少なく練習が難しい、②準備や競技に時間がかかり、所定の時間内で練習や競技ができない、③走ることに負担感を持っている児童もおり、特にチームで取り組むリレーは負担感が大きい、などが変更の主な理由として挙げられます。代表リレーは、確かに参加者が限られますが、一体感をもって応援することも教育上重要なことと考えています。

ソーラン節など毎年恒例の演技や競技については、力強さや協調性などもっと伸びる余地はありますが、児童の発達段階や個々の差異、限られた練習時間などを考慮すれば、十分満足のいくレベルと捉えています。

〔意見〕相談体制についての意見（要旨）

「何かトラブルや心配事があっても学校は相談しにくい。」

「相談しても、きちんと対応してくれない。」



〔学校の考え〕

学校では、問題行動については予防を第一に、起こってしまった場合は「早期対応・早期解決」、解決すれば「再発防止・継続的見守り」を心掛けています。そのためには、保護者の方々との連携は欠かせません。

問題行動の多くは人間関係によるため、集団生活の場である学校で起こりますが、ゲームやインターネットなど家庭生活に関係することも少なくありません。しかし、プライバシーへの配慮などから学校の関わりは限定的になりがちです。また、問題行動が起きた場合、事実関係の確認を行いますが、対象となる児童は複数であることから確認に手間取ったり、他の業務との関わりで家庭への連絡のタイミングがうまく取れなかったりすることもあります。該当の児童や保護者の方々の主張も相互に異なることがあるため、一律の対応が難しいケースもあります。こうしたことから、学校の相談体制への違和感や不信感が発生しているとも考えられます。

いずれにしても、学校としては、今回いただいた意見を謙虚に受け止め、今後も「誠意を持って丁寧に対応する」という基本的なスタンスを大切に对应してまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。